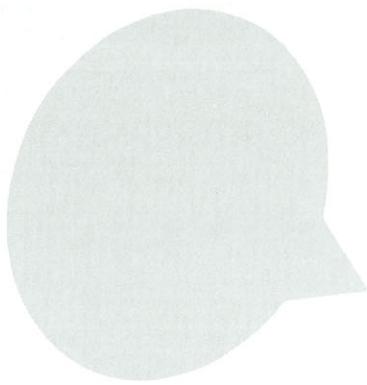


親しまれる県庁を目指して

“お役所ごとくば なくそう”運動



私立学校、宗教法人関係。そして庁内の文書、情報プラザでの情報公開など、いわば県庁の文書、情報の番人ともいえるのが、私学文書課。今、ここを窓口として、『お役所ごとくばなくそう』運動が進んでいます。

とても身近な問題でもあり、ママさんたちは、牛島課長に鋭く迫りました。探険隊 この運動を始められたきっかけは、何だったんですか。

——地方の時代と言われる中、今日ほど、県民の方と行政とが一体になって地方の個性を生かした取り組みを進めることが必要となっている時期はないんじゃないか。このためには、お互いがその立場を充分理解しあいながらコミュニケーションを深めていかなければならないということなんです。

探険隊 運動は今年から始まったんですよね。

——はい。7月に民間の方6人に委員をお願いし、懇話会を設けました。10月までに4回の懇談を重ね、11月には提言がまとまりました。また、県政モニターの方200人へのアンケートも併せて実施しました。

探険隊 私達も、例えば『おつて連絡します』と言われて、いつまで待てばいいのかなどと思った経験があります。お役所の言葉や文書は、具体性に欠けるんじゃないかと感じることもあったんですが、いろんな意見が出たんでしょうね。

——そうですね。『遺憾のないよう』などのことばの具体例や、すべてを形式的に済ませようとするといった基本的



ママさん探険隊
今回のメンバーは、
田中君代さん
松坂明子さん
川神知子さん
の三人でした。

それゆけ ママさん 探険隊



な姿勢の問題にいたるまで厳しい御意見をたくさんいただきました。

探険隊 これを今後どう生かしていくかが大切だと思うんですが、具体的に何か取り組みをされているんですか。

——まず、懇話会の提言などを整理して、『お役所ごとくば言い換えマニュアル』を作成し、全職員に配りました。また、『出来ることから確実にやっつけていこう』を合言葉に、『職場一改善』を実践しています。また、この運動を継続的に進めていくために県庁内に『推進チーム』を設けました。

探険隊 改善が進んでいない他の課などに注意するとか…?

——先にお話したマニュアルはあくまで改善のためのひとつのきっかけにすぎません。昔は法律万能の感がありました。今は違う。職員自身が、どうしたら県民の皆さんとよりよいコミュニケーションが持てるかを真剣に考える。こうした姿勢が大切なのだと思います。

探険隊 窓口などで『こんにちは』と笑顔で言われたりすると、気持ちがいいですね。今まで、どちらかというとなんか無愛想な感じもしたよね。

——社会がどんどん変わっているのに、考え方は昔のまま。これでは、県民の皆さんと共に県政を進めていく事はできない。職員一人一人が自らの意識を新たに、相手の立場になって考えれば、自然に『こんにちは』が言えるようになるんじゃないかと思っています。とにかく、一歩進めてみる。その結果を踏まえて、次に進む。その繰り返しで出来上っていくものではないでしょうか。県の仕事とは何なのかという事を常に念頭に置きながら、職員が一丸となって進めていきたいと考えています。

探険隊 たいへんな事でしょうけど、がんばって下さいね。

県庁すっごい

緊急に備えて24時間、
即座に対応する
通信網。

県警本部通信指令室



交通事故、酔っ払いの通報etc…。
日に100件を超えるという110番通報に、即時対応。その指令塔ともいえるのがここ。あらゆる緊急事態に備え、24時間体制で頑張っています。

